No.２８６４

茅ヶ岳に隣接する黒富士火山帯を歩く

曲岳～黒富士

実施日　２０１８年1月２１日(日)

天　候　快晴

リーダー　石原　勝正

参加者　涌井良明、白石恵美子、石附智恵、中村友子、宇野輝代、石原勝正　計6名

費　用　JR(新宿駅－甲府駅)Sあずさ7,220円　🚘2,400円　計　9,620円

タイム　JR甲府駅(8;40🚘)平見城(9:20~9:25)八丁峠(10:40~10:45)曲岳(11:20~11:55昼食)八丁峠(12:28~12:34)八丁峰東側鞍部(12:41)升形山(12:41~12:50)八丁峰東側鞍部(13:00~13:05) 黒富士(13:05~13:30)八丁峰(13:45~14:10)八丁峠(14:10~14:18)平見城(14:20~15:10~15:20)JR甲府駅(16:00)

甲府駅改札口に8:40集合。

予約した山梨タウンコーチのジャンボタクシーに乗車、40分程で車道の終点の平見城登山口に到着。

気象庁によると明日から関東地方は大雪警報が出る程の大荒れ予報の中、幸運にも今日の山行は風もなく快晴、雪をかぶった富士山をバックに準備を整え出発。

黒富士農場の入口から舗装された林道をしばらく進むと開拓農場

内の道路から分岐して沢を下りて山道に入る。くっきりと残された鹿の足跡を追うように沢の左岸をたどり、登山道はやがて沢を離れて、明るい落葉樹林帯の山腹に取り付き折り返しながら登り始める。

出発して50分ほどで前方に覆い被さるようにオーバーハングした大きな岩壁の下を通過して、日差しのある暖かい落葉が深く積もった斜面で最初の休憩をとる。その後、傾斜の増したジグザグの道を登り狭い尾根に上がると曲岳と黒富士を東西に分ける八丁峠だ。

峠には古い標識が木に打ち付けられており左に折れて曲岳を目指す。

落葉樹のミズナラ・シラカバ・カエデなどの葉の落ちた明るい雑木林、ときどき開ける草原や灌木地帯を通る日だまりハイキングを楽しむ。

傾斜の少ない丘のようなピークを幾つか通過する。

前方にこんもりと樹木の茂った曲岳の山頂が見えてくると、目の前に覆いかぶさるような急登への挑戦が始まる。急坂を四つん這いになって、露出した岩や木の根などを掴みながらきつい坂を登り

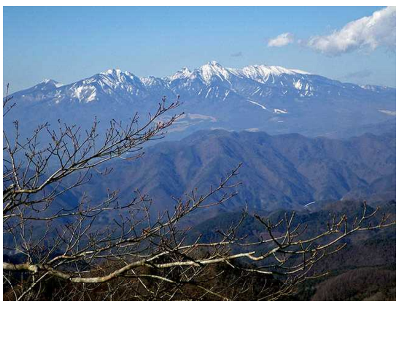
きると曲岳山頂だ。山頂は狭く一部樹木に覆われているが、冬季は葉の落ちた樹林の間からは隣の茅ヶ岳、遠景には雪を被った八ヶ岳、駒ケ岳など南アルプス連山が望める。

頂上は狭いが6人には適当な広さだ。暖かい日差しの中で昼食をとり、山頂の楽しいひとときを過ごしたのち、頂上直下の急坂を慎重に下り、明るい尾根道の往路を八丁峠まで戻る。

峠から八丁峰北側の山腹を絡んで樹林帯をしばらく歩くと升形山と黒富士を南北に分岐する八丁峰東側鞍部に出る。

ルートは分岐点から升形山を往復してから黒富士に向かい、黒富士を下って最初の八丁峠に戻る計画である。比較的歩きやすいクマザサの草原の斜面を登って急坂を超えると山頂の大きな岩の下に着く。

四角な枡のような狭い岩峰の上に立つと、南アルプス、八ヶ岳、奥秩父山塊（国師岳～金峰山～瑞牆山）などの眺望が素晴らしい。南にはこれから向かう黒富士、その先に太刀岡山、遠景にかすかに富士山が見える。山頂は6人全員の集合写真が撮れないほど狭い。移動には足元に注意が必要だ。



その後升形山を下り草原の鞍部に戻り黒富士に向かう。灌木の中の登山道を25分ほど登ると火山岩の露出した黒富士頂上に立つ。頂上からわずかに南に下ると黒富士展望台と標識のある岩壁の上に立つ。青い松の木の上に富士山が眺められる。

下山は往路を途中まで下り、左に折れて八丁峰を通過するルートを登り返して往路を通らず直接八丁峠に下る。途中、平見城でのジャンボタクシーとの待ち合わせ時間を配車センターと携帯電話で打ち合わせて八丁峠から下山する。

登山口の平見城畜産団地に着いて、待機していたジャンボタクシーに乗車して甲府駅への帰路についた。曲岳～黒富士は、シーズン中であっても殆ど車かタクシーを利用する以外交通の便が良くないため歩く人が少ない。

特に冬季は観音峠を通る林道が閉鎖されることからほとんど人に会うこともないルートである。今日の山行も曲岳頂上で登山客ひとりにあっただけで、こぶし会グループだけの静かな落ち着いた山歩きを楽しむことができた。

（記＆写真・石原　勝正）

（写真提供・涌井　良明）